

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年10月28日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第307144号

出 願 人

Applicant(s):

キヤノン株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2000年11月17日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

出証番号 出証特2000-3096073

【書類名】 特許願

【整理番号】 4084088

【提出日】 平成11年10月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G02B 7/00

【発明の名称】 光学装置、光学装置駆動ユニットおよびカメラシステム

【請求項の数】 24

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

 【氏名】 ▲吉▼川 一勝

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

 【氏名】 夏目 賢史

【特許出願人】

 【識別番号】 000001007

 【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100067541

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 岸田 正行

【選任した代理人】

 【識別番号】 100104628

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 水本 敦也

【選任した代理人】

 【識別番号】 100108361

 【弁理士】

【氏名又は名称】 小花 弘路

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 044716

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 光学装置、光学装置駆動ユニットおよびカメラシステム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 レンズその他の光学調節手段に対し、記憶手段に記憶されたプリセット情報を用いるプリセット駆動制御を行う光学装置において、

記憶指示操作手段が操作されることに応じて、任意のプリセット速度情報および任意のプリセット方向情報を記憶手段に記憶可能とし、

前記光学調節手段を、記憶されたプリセット速度情報に対応する速度で、記憶されたプリセット方向情報に対応する方向に駆動する速度・方向プリセット駆動制御を行うことを特徴とする光学装置。

【請求項 2】 前記光学調節手段が駆動され、かつ前記記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での前記光学調節手段の実駆動速度をプリセット速度情報として前記記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 1 に記載の光学装置。

【請求項 3】 操作量に応じた前記光学調節手段の駆動速度指令を発生させるために操作される駆動指令操作手段を有しており、

前記駆動指令操作手段が操作され、かつ前記記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での駆動速度指令をプリセット速度情報として前記記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 1 に記載の光学装置。

【請求項 4】 前記光学調節手段が駆動され、かつ前記記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での前記光学調節手段の実駆動方向をプリセット方向情報として前記記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 1 に記載の光学装置。

【請求項 5】 操作方向に応じた前記光学調節手段の駆動方向指令を発生させるために操作される駆動指令操作手段を有しており、

前記駆動指令操作手段が操作され、かつ前記記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での駆動方向指令をプリセット方向情報として前記記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 1 に記載の光学装置。

【請求項 6】 前記速度・方向プリセット駆動制御を行っているときに、前

記光学調節手段の実駆動速度とプリセット速度情報に対応する駆動速度とを比較し、これら両駆動速度を略一致させるように前記光学調節手段の実駆動速度の加減制御を行うことを特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載の光学装置。

【請求項 7】 前記速度・方向プリセット駆動制御が行われていることを表示する表示手段を有することを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれかに記載の光学装置。

【請求項 8】 前記光学調節手段の駆動速度を、プリセット速度情報に対応する駆動速度とするか、駆動可能な最高駆動速度とするかを選択するために操作される速度選択操作手段を有し、

この速度選択操作手段の操作により選択された駆動速度で前記光学調節手段を駆動することを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれかに記載の光学装置。

【請求項 9】 前記速度・方向プリセット駆動制御を開始させるために操作される制御開始操作手段を有することを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれかに記載の光学装置。

【請求項 10】 前記速度・方向プリセット駆動制御を行っているときに、前記制御開始操作手段が操作されることに応じて、このプリセット駆動制御を中止することを特徴とする請求項 9 に記載の光学装置。

【請求項 11】 操作量および操作方向のうち少なくとも一方に応じた前記光学調節手段の駆動指令を発生させるために操作される駆動指令操作手段を有しており、

前記速度・方向プリセット駆動制御を行っているときに、前記駆動指令操作手段が操作されることに応じて、このプリセット駆動制御を中止することを特徴とする請求項 1 から 10 のいずれかに記載の光学装置。

【請求項 12】 レンズその他の光学調節手段を有する光学装置本体に装着又は接続され、前記光学調節手段に対し、記憶手段に記憶されたプリセット情報を用いるプリセット駆動制御を行う光学装置駆動ユニットにおいて、

記憶指示操作手段が操作されることに応じて、任意のプリセット速度情報および任意のプリセット方向情報を記憶手段に記憶可能とし、

前記光学調節手段を、記憶されたプリセット速度情報に対応する速度で、記憶

されたプリセット方向情報に対応する方向に駆動する速度・方向プリセット駆動制御を行うことを特徴とする光学装置駆動ユニット。

【請求項 13】 前記光学調節手段が駆動され、かつ前記記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での前記光学調節手段の実駆動速度をプリセット速度情報として前記記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 12 に記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 14】 操作量に応じた前記光学調節手段の駆動速度指令を発生させるために操作される駆動指令操作手段を有しており、

前記駆動指令操作手段が操作され、かつ前記記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での駆動速度指令をプリセット速度情報として前記記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 12 に記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 15】 前記光学調節手段が駆動され、かつ前記記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での前記光学調節手段の実駆動方向をプリセット方向情報として前記記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 12 に記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 16】 操作方向に応じた前記光学調節手段の駆動方向指令を発生させるために操作される駆動指令操作手段を有しており、

前記駆動指令操作手段が操作され、かつ前記記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での駆動方向指令をプリセット方向情報として前記記憶手段に記憶することを特徴とする請求項 12 に記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 17】 前記速度・方向プリセット駆動制御を行っているときに、前記光学調節手段の実駆動速度とプリセット速度情報に対応する駆動速度とを比較し、これら両駆動速度を略一致させるように前記光学調節手段の実駆動速度の加減制御を行うことを特徴とする請求項 12 から 16 のいずれかに記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 18】 前記速度・方向プリセット駆動制御が行われていることを表示する表示手段を有することを特徴とする請求項 12 から 17 のいずれかに記

載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 1 9】 前記光学調節手段の駆動速度を、プリセット速度情報に対応する駆動速度とするか、駆動可能な最高駆動速度とするかを選択するために操作される速度選択操作手段を有し、

この速度選択操作手段の操作により選択された駆動速度で前記光学調節手段を駆動することを特徴とする請求項 1 2 から 1 8 のいずれかに記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 2 0】 前記速度・方向プリセット駆動制御を開始させるために操作される制御開始操作手段を有することを特徴とする請求項 1 2 から 1 9 のいずれかに記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 2 1】 前記速度・方向プリセット駆動制御を行っているときに、前記制御開始操作手段が操作されることに応じて、このプリセット駆動制御を中止することを特徴とする請求項 2 0 に記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 2 2】 操作量および操作方向のうち少なくとも一方に応じた前記光学調節手段の駆動指令を発生させるために操作される駆動指令操作手段を有しており、

前記速度・方向プリセット駆動制御を行っているときに、前記駆動指令操作手段が操作されることに応じて、このプリセット駆動制御を中止することを特徴とする請求項 1 2 から 2 1 のいずれかに記載の光学装置駆動ユニット。

【請求項 2 3】 請求項 1 から 1 1 のいずれかに記載の光学装置と、この光学装置が装着されるカメラとを有して構成されることを特徴とするカメラシステム。

【請求項 2 4】 請求項 1 2 から 2 2 のいずれかに記載の光学装置駆動ユニットと、この駆動ユニットが装着又は接続される光学装置本体と、この光学装置本体が装着されるカメラとを有して構成されることを特徴とするカメラシステム。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、テレビカメラ、ビデオカメラシステムなどに用いられる光学装置および光学装置駆動ユニットに関し、例えばENGカメラシステムなどに用いられるズームレンズ装置や駆動ユニットに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来のテレビレンズやビデオレンズ等の光学装置における、ズームコントロールスイッチやズームデマンド等を用いたズーム速度制御は、例えば特開昭51-40924号公報にて提案されている。

【0003】

このズーム駆動制御は、モータなどの駆動系と、この駆動系の作動を制御する制御系とからなるサーボ手段により行われるようになっており、このサーボ手段における制御系に指令信号を与えるためにズームコントロールスイッチやズームデマンドが使用される。そして実際のズーム操作では、ズームコントロールスイッチやズームデマンドに設けられたサムリングの操作量に応じて、低速度から高速度まで撮影者が欲するズーム速度に調整できるように構成されている。

【0004】

ところで、テレビカメラやビデオカメラなどを用いての撮影では、様々な撮影手法が採られるが、その1つとして、一定の低速度でズーム駆動を行いながら撮影を行う撮影手法がある。そして、この撮影手法を、撮影中に何度も繰り返して使用することもある。

【0005】

従来、このようなズーム駆動は、撮影者が、ズームコントロールスイッチやズームデマンドに設けられたサムリングの操作量を一定に保つことによって実現している。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、撮影者にとって、ズーム駆動を行っている間、ズームコントロールスイッチ等の操作量を一定に保つことは容易ではない。特にズーム駆動速度を低速度にするほど、ズームコントロールスイッチ等の操作量を一定に保つ時間

も長くなり、操作量を一定に保つことは大変困難になる。さらに、同じズーム駆動速度を何度も繰り返し再現することも困難である。

【0007】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するために、本発明では、レンズその他の光学調節手段に対し、記憶手段に記憶されたプリセット情報を用いるプリセット駆動制御を行う光学装置又は光学装置駆動ユニットにおいて、記憶指示操作手段が操作されることに応じて、任意のプリセット速度情報および任意のプリセット方向情報を記憶手段に記憶可能とし、光学調節手段を、記憶されたプリセット速度情報に対応する速度で、記憶されたプリセット方向情報に対応する方向に駆動する速度・方向プリセット駆動制御を行えるようにしている。

【0008】

具体的には、光学調節手段が駆動され、かつ記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での光学調節手段の実駆動速度や実駆動方向をプリセット速度情報やプリセット速度情報として記憶手段に記憶させる。

【0009】

また、操作量に応じた光学調節手段の駆動速度指令や操作方向に応じた光学調節手段の駆動方向指令を発生させるために操作される駆動指令操作手段を有する場合には、この駆動指令操作手段が操作され、かつ記憶指示操作手段が操作されたときに、この記憶指示操作手段の操作時点での駆動速度指令をプリセット速度情報として記憶手段に記憶させる。

【0010】

このように、予め撮影者等が記憶指示操作手段の操作により任意に選択し、記憶させておいた速度で、記憶させておいた方向に駆動する速度・方向プリセット駆動制御を可能とすることにより、きわめて簡単な操作によって光学調節手段の一定速度駆動が可能となる。しかも、同一速度での一定速度駆動を何度でも正確に再現することが可能となる。

【0011】

なお、特に低速での光学調節手段の速度・方向プリセット駆動制御を行う場合

に、撮影者にとって速度・方向プリセット駆動制御が行われているか否かの判断が難しくなるおそれがあるため、速度・方向プリセット駆動制御が行われていることを視覚的に判断できる表示手段を設けるのが好ましい。

【0 0 1 2】

また、本願第 2 の発明では、上記第 1 の発明において、光学調節手段の駆動速度を、プリセット速度情報に対応する駆動速度とするか、駆動可能な最高駆動速度とするかを選択するために操作される速度選択操作手段を設け、この速度選択操作手段の操作により選択された駆動速度で光学調節手段を駆動するようにしている。

【0 0 1 3】

これにより、速度・方向プリセット駆動制御を用いた撮影手法の幅を広げることができ、より一層有意義なプリセット駆動制御機能を実現することが可能となる。

【0 0 1 4】

【発明の実施の形態】

（第 1 実施形態）

図 1 には、本発明の第 1 実施形態であるレンズ装置（光学装置）の構成を示している。

【0 0 1 5】

この図において、1 は撮影者によって操作されるズームコントロールスイッチ（駆動指令操作手段）、2 はレンズ装置の変倍調整を行うズームレンズ光学系（光学調節手段）9 を電動駆動するために、ズームコントロールスイッチ 1 の操作量に比例した駆動方向および駆動速度（駆動量や駆動位置であってもよい）を指示する指令信号を発生する指令信号発生回路である。

【0 0 1 6】

3 はズームコントロールスイッチ 1 の操作量に対するズームレンズ光学系 9 の駆動速度を可変するズーム速度可変ボリューム、4 は指令信号を A/D 変換回路 5 に取り込むために信号レベル、シフト変換を行う指令信号演算回路である。A/D 変換回路 5 は、指令信号演算回路 4 から出力されるアナログ信号をディジタ

ル信号に変換する。

【0017】

6は本レンズ装置の動作制御を司るCPUであり、このCPU6内には、プリセット速度（プリセット速度情報）およびプリセット方向（プリセット方向情報）を記憶可能なメモリ（記憶手段）6aが備えられている。また、このCPU6は、上記メモリ6aに記憶されたプリセット速度で、記憶されたプリセット方向に駆動する「スピードプリセットズーム制御」（速度・方向プリセット駆動制御）も司る。

【0018】

8は「スピードプリセットズーム制御」に用いるプリセット速度およびプリセット位置の記憶指示をCPU6に与えるために共用されるメモリスイッチ（記憶指示操作手段）である。

【0019】

また、7は、後述するように、ズームレンズ光学系9が駆動されているときにオン操作されることによりプリセット速度およびプリセット方向をメモリ6aに記憶させるメモリ実行機能と、プリセット速度およびプリセット速度の記憶後にオン操作されることによりこの制御動作の開始（および中止）を指示する機能とを併せ持つスピードプリセットズームスイッチ（制御開始操作手段）である。

【0020】

10はCPU6からズームレンズ光学系9を駆動するため出力される指令信号をディジタル信号からアナログ信号に変換するD/A変換回路、11はD/A変換回路10から出力される指令信号の信号レベル、シフト変換を行うCPU指令信号演算回路、12はズームレンズ光学系9の駆動をズームコントロールスイッチ1から行うか、CPU6から行うかを切換える指令信号切換えスイッチである。

【0021】

13はズームレンズ光学系9を駆動するモータ14を作動させるための電力増幅回路、15はズームレンズ光学系9の駆動速度に応じた速度信号を出力する速度検出器、16は速度信号をA/D変換回路17に取り込むために信号レベル、

シフト変換を行う速度信号演算回路である。A/D変換回路 17 は、速度信号演算回路 16 から出力されるアナログ信号をデジタル信号に変換する。

【0022】

18 はズームレンズ光学系 9 の位置に応じた位置信号を出力する位置信号検出器（位置検出手段）、19 は位置信号を A/D 変換回路 20 に取り込むために信号レベル、シフト変換を行う位置信号演算回路である。A/D 変換回路 20 は、位置信号演算回路 19 から出力されるアナログ信号をデジタル信号に変換する。

【0023】

21 は「スピードプリセットズーム制御」が行われているか否かを視覚的に判断させるための表示を行うプリセット動作表示器である。

【0024】

なお、スピードプリセットズームスイッチ 7 およびメモリスイッチ 8 は、ズームレンズ光学系 9 や不図示のフォーカスレンズ光学系を有するレンズ装置本体に一体的に設けてもよいし、レンズ装置本体にケーブル等を介して接続され、ズームコントロールスイッチ 1 に代わるサムリング等を備えるズームデマンド（外部コントロールユニット）に設けてもよい。

【0025】

また、上記構成のうちズームレンズ光学系 9 を除く構成部分、すなわちズームコントロールスイッチ 1、CPU 6 等の各回路、モータ 14、速度検出器 15、位置検出器 18、スピードプリセットズームスイッチ 7 およびメモリスイッチ 8 は、ハンディタイプのレンズ装置本体に装着又は接続されて用いられるレンズ駆動ユニット（光学装置駆動ユニット）に設けてもよい。

【0026】

このような構成のレンズ装置又はレンズ駆動ユニットにおいては、プリセット速度およびプリセット速度を記憶するために、ズームレンズ光学系 9 を予めモータ駆動する必要がある。

【0027】

ここでは、まずズームコントロールスイッチ 1 からのズームレンズ光学系 9 の

駆動制御について説明する。ズームコントロールスイッチ 1 が操作されると、その操作量に比例した駆動方向および駆動速度（駆動量や駆動位置であってもよい）を指示する指令信号が指令信号発生回路 2 から出力される。この指令信号は、ズームコントロールスイッチ 1 の操作量に対するズームレンズ光学系 9 の駆動速度を可変するズーム速度可変ボリューム 3 および指令信号切換えスイッチ 1 2 の A 側を介して電力増幅回路 1 3 に入力され、電力増幅回路 1 3 によって所定レベルに増幅された後、モータ 1 4 に入力される。これによりモータ 1 4 が作動し、ズームレンズ光学系 9 が駆動される。

【 0 0 2 8 】

また、プリセット速度およびプリセット方向を記憶する際に必要なズームレンズ光学系 9 の実駆動速度および実駆動方向は、速度検出器 1 3 からの出力が、速度信号演算回路 1 6 および A/D 変換回路 1 7 を介して CPU 6 に入力されることにより検出可能である。

【 0 0 2 9 】

さらに、後述するように、プリセット速度およびプリセット方向を記憶する際に必要なズームコントロールスイッチ 1 が操作されたか否かの判断は、ズームコントロールスイッチ 1 の操作量に比例した指令信号が指令信号発生回路 2 から出力され、ズーム速度可変ボリューム 3、指令信号演算回路 4 および A/D 変換回路 5 を介して CPU 6 に入力されることにより可能である。

【 0 0 3 0 】

また、ズームレンズ光学系 9 の実駆動位置は、位置検出器 1 8 からの出力が位置信号演算回路 1 9 および A/D 変換回路 2 0 を介して CPU 6 に入力されることにより検出可能である。

【 0 0 3 1 】

次に、上記「スピードプリセットズーム制御」を実行する上で必要なプリセット速度およびプリセット方向の記憶設定手順について説明する。

【 0 0 3 2 】

この記憶設定手順では、撮影者がズームコントロールスイッチ 1 を操作し、予めプリセットしたい速度でプリセットしたい方向にズームレンズ光学系 9 を駆動

した状態で、メモリスイッチ 8 をオフからオンにした時のズームレンズ光学系 9 の駆動速度および方向（速度検出器 1 5 を通じて検出したズームレンズ光学系 9 の実駆動速度および実駆動方向）をそれぞれプリセット速度およびプリセット方向として CPU 6 が記憶する。

【 0 0 3 3 】

この時の CPU 6 の処理を図 2 を用いて説明する。まず、初期設定としてメモリ 6 a 内に構成されたプリセット速度メモリ領域にプリセット速度として最高速などの所定のズーム駆動速度を記憶する（ステップ 1 0 1）。この初期設定時のプリセット速度は、撮影者の希望するズーム駆動速度でも、前回のレンズ装置の電源投入がされている最中に設定したズーム駆動速度でもよい。

【 0 0 3 4 】

また、初期設定としてメモリ 6 a 内に構成されたプリセット方向メモリ領域にプリセット方向として望遠側、広角側などの所定のズーム駆動方向を記憶する（ステップ 1 0 2）。この初期設定時のプリセット方向は、撮影者の希望するズーム駆動方向でも、前回のレンズ装置の電源が投入されている最中に設定したズーム駆動方向でもよい。

【 0 0 3 5 】

次に、A/D変換回路 1 7 からズームレンズ光学系 9 の駆動速度および駆動方向を取得する（ステップ 1 0 3）。その後、A/D変換回路 5 のデータを取得して、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かを判断し（ステップ 1 0 4）、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されていない場合には、再び A/D変換回路 1 7 からズーム速度およびズーム方向を取得する（ステップ 1 0 3）。

【 0 0 3 6 】

ズームコントロールスイッチ 1 が操作されていた場合には、メモリスイッチ 8 がオフからオンに変化したか否かを判断し（ステップ 1 0 5）、メモリスイッチ 8 がオフからオンに状態が変化していない場合には、ステップ 1 0 3 に戻る。

【 0 0 3 7 】

メモリスイッチ 8 がオフからオンに変化している場合には、ステップ 1 0 3 で

取得した駆動速度を新たなプリセット速度として、プリセット速度メモリ領域に記憶する（ステップ 1 0 6）。さらに、ステップ 1 0 3 で取得した駆動方向を新たなプリセット方向として、プリセット方向メモリ領域に記憶する（ステップ 1 0 7）。

【0 0 3 8】

次に、「スピードプリセットズーム制御」の動作（以下、単にプリセット動作という）について説明する。このプリセット動作時のズームレンズ光学系 9 の制御は、CPU 6 から出力される指令信号が、D/A 変換回路 1 0、CPU 指令信号演算回路 1 1、指令信号切換えスイッチ 1 2 の B 側および電力増幅回路 1 3 を介してモータ 1 4 に入力されることにより、ズームレンズ光学系 9 を予め設定されたプリセット速度で、予め設定されたプリセット方向に、ズームレンズ光学系 9 の可動範囲端（途中でスピードプリセットズーム制御が中止されたときはその位置）まで駆動することで行われる。

【0 0 3 9】

この時の CPU 6 の処理を図 3 および図 4 を用いて説明する。まず、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かを判断し（ステップ 2 0 1）、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されている場合は、ズームレンズ光学系 9 の制御をズームコントロールスイッチ 1 から行うために、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換える（ステップ 2 0 2）。

【0 0 4 0】

次に、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 2 0 3）、プリセット動作が行われていない場合には、再びズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 2 0 1）に戻る。

【0 0 4 1】

ステップ 2 0 3 にてプリセット動作が行われている場合には、プリセット動作表示器 2 1 をオフし（ステップ 2 0 4）、その後プリセット動作を終了（中止）する（ステップ 2 0 5）。そして、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 2 0 1）に戻る。

【0 0 4 2】

一方、ステップ 2 0 1 にてズームコントロールスイッチ 1 が操作されていない場合には、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 2 0 6）、プリセット動作が行われていない場合には、再びズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 2 0 1）に戻る。

【 0 0 4 3 】

ステップ 2 0 6 にてプリセット動作が行われている場合には、A/D変換回路 1 7 からズームレンズ光学系 9 の速度および方向を取得し（ステップ 2 0 7）、さらに A/D変換回路 2 0 からズームレンズ光学系 9 の位置を取得する（ステップ 4 0 8）。

【 0 0 4 4 】

次に、ステップ 2 0 8 にて取得したズーム位置がこのレンズ装置における可動範囲端位置に達したか否かを判断し（ステップ 2 0 9）、ズーム位置が可動範囲端に達した場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 2 1 0）、プリセット動作表示器 2 1 をオフして（ステップ 2 1 1）、プリセット動作を終了する（ステップ 2 1 2）。

【 0 0 4 5 】

ステップ 2 0 9 にてズーム位置が可動範囲端に達していない場合には、ステップ 2 0 7 にて取得したズーム速度と、図 2 に示すフローによって予めメモリ 6 a に記憶しておいたプリセット速度とが等しいか否か（例えば、ズーム速度がプリセット速度に対して所定の許容範囲内におさまっているか否か）を判断する（ステップ 2 1 3）。

【 0 0 4 6 】

ズーム速度とプリセット速度とが等しくない場合には、ズーム速度よりもプリセット速度の方が速いか否かを判断し（ステップ 2 1 4）、ズーム速度よりもプリセット速度の方が速い場合には、D/A変換回路 1 0 への指令信号出力を増加させる（ステップ 2 1 6）。また、ズーム速度よりもプリセット速度の方が遅い場合には、D/A変換回路 1 0 への指令信号出力を減少させる（ステップ 2 1 5）。

【 0 0 4 7 】

その後、ステップ 2 0 7 にて取得したズーム方向と、予め記憶しておいたプリセット方向とが等しいか否かを判断し（ステップ 2 1 7）、ズーム方向とプリセット方向が等しくない場合には、現在のズーム方向とは反対方向にズームレンズ光学系 9 を駆動する（ステップ 2 1 8）。

【 0 0 4 8 】

上記の諸処理が終了した後、スピードプリセットズームスイッチ 7（図 3 および図 4 には、プリセットズームスイッチ 7 と記す）がオフからオンに変化したか否かを判断し（ステップ 2 1 9）、スピードプリセットズームスイッチ 7 がオフからオンに変化していない場合には、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 2 0 1）に戻る。

【 0 0 4 9 】

一方、スピードプリセットズームスイッチ 7 がオフからオンに変化している場合には、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 2 2 0）、プリセット動作が行われていない場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を B 側に切り換え（ステップ 2 2 1）、プリセット動作表示器 2 1 をオンする（ステップ 2 2 3）。さらに、図 2 に示すフローによってメモリ 6 a に記憶しておいたプリセット速度でのプリセット方向へのプリセット動作を開始する（ステップ 2 2 3）。

【 0 0 5 0 】

この後、ズームレンズ光学系 9 が可動範囲端に達すると（ステップ 2 0 9）、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 2 1 0）、プリセット動作表示器 2 1 をオフして（ステップ 2 1 1）もプリセット動作を終了する（ステップ 2 1 2）。

【 0 0 5 1 】

一方、ステップ 2 2 0 にてプリセット動作が行われている場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 2 2 4）、プリセット動作表示器 2 1 をオフし（ステップ 2 2 5）、その後プリセット動作を終了（中止）する（ステップ 2 2 6）。

【 0 0 5 2 】

以上説明したように、本実施形態によれば、予め撮影者等がメモリスイッチ 8 の操作により任意に選択し、メモリ 6 a に記憶させておいた速度で、記憶させておいた方向にズームレンズ光学系 9 を駆動するプリセット動作を可能とすることにより、きわめて簡単な操作によってズームレンズ光学系 9 の一定速度駆動が可能となる。しかも、スピードプリセットズームスイッチ 7 をオンするだけで、ズームレンズ光学系 9 の同一速度での一定速度駆動を何度でも正確に再現することができる。

【0053】

また、本実施形態によれば、プリセット動作を行う際にプリセット動作表示器 21 をオンするようにしているので、例えば低速でのプリセット動作が行われているときでも、撮影者にプリセット動作が行われているか否かを明確に認識させることができる。

【0054】

(第 2 実施形態)

上記第 1 実施形態では、「スピードプリセットズーム制御」、すなわちプリセット動作を予め設定したプリセット速度で、予め設定したプリセット方向に行う場合についてのみ説明したが、プリセット動作中のズームレンズ光学系 9 の駆動速度を、プリセット速度で行うか、そのレンズ装置又は駆動ユニットが駆動可能な最高速で行うかの切り換え機能を付加することにより、テレビやビデオの撮影の際の撮影手法の幅を更に広げ、より一層有意義なプリセット機能を実現することが可能となる。

【0055】

図 5 には、本実施形態のレンズ装置の構成を示している。なお、本実施形態において、第 1 実施形態と共通する構成要素には第 1 実施形態と同符号を付す。

【0056】

本実施形態では、第 1 実施形態の構成に、プリセット動作中のズームレンズ光学系 9 の駆動速度をプリセット速度で行うか最高速で行うかのプリセットモード切換えスイッチ（速度選択操作手段）22 を追加している。

【0057】

なお、スピードプリセットズームスイッチ7、メモリスイッチ8およびプリセットモード切換えスイッチ22は、ズームレンズ光学系9や不図示のフォーカスレンズ光学系を有するレンズ装置本体に一体的に設けてもよいし、レンズ装置本体にケーブル等を介して接続され、ズームコントロールスイッチ1に代わるサムリング等を備えるズームデマンド（外部コントロールユニット）に設けてもよい。

【0058】

また、上記構成のうちズームレンズ光学系9を除く構成部分、すなわちズームコントロールスイッチ1、CPU6等の各回路、モータ14、速度検出器15、位置検出器18、スピードプリセットズームスイッチ7、メモリスイッチ8およびプリセットモード切換えスイッチ22は、ハンディタイプのレンズ装置本体に装着又は接続されて用いられるレンズ駆動ユニット（光学装置駆動ユニット）に設けてもよい。

【0059】

このような構成のレンズ装置又はレンズ駆動ユニットにおいては、プリセット速度およびプリセット方向を記憶するために、ズームレンズ光学系9を予めモータ駆動する必要がある。この点については、第1実施形態と同様である。

【0060】

また、ズームコントロールスイッチ1からのズームレンズ光学系9の駆動制御方法、プリセット速度およびプリセット方向を記憶する際に必要なズームレンズ光学系9の駆動速度および駆動速度の検出方法、さらにはプリセット速度およびプリセット方向を記憶する際に必要なズームコントロールスイッチ1が操作されたか否かの判断方法についても第1実施形態と同様である。

【0061】

次に、本実施形態におけるプリセット動作について説明する。本実施形態のプリセット動作時のズームレンズ光学系9の制御も、CPU6から出力される指令信号が、D/A変換回路10、CPU指令信号演算回路11、指令信号切換えスイッチ12のB側および電力増幅回路13を介してモータ14に入力されること

により行われる点では第 1 実施形態と同様であるが、プリセットモード切換えスイッチ 2 2 の状態により、CPU 6 からズームレンズ光学系 9 を予め設定されたプリセット速度で駆動するための指令信号が出力されるプリセットモードと最高速で駆動するための指令信号が出力される最高速モードとが選択的に設定される点で第 1 実施形態と異なる。なお、いずれのモードに設定されても、予め設定されたプリセット方向に、ズームレンズ光学系 9 の可動範囲端（途中でスピードプリセットズーム制御が中止されたときはその位置）まで駆動する点は同じある。

【0062】

この時の CPU 6 の処理を図 6 および図 7 を用いて説明する。まず、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かを判断し（ステップ 401）、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されている場合は、ズームレンズ光学系 9 の制御をズームコントロールスイッチ 1 から行うために、指令信号切換えスイッチ 12 を A 側に切り換える（ステップ 402）。

【0063】

次に、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 403）、プリセット動作が行われていない場合には、再びズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 401）に戻る。

【0064】

ステップ 403 にてプリセット動作が行われている場合には、プリセット動作表示器 21 をオフし（ステップ 404）、その後プリセット動作を終了（中止）する（ステップ 405）。そして、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 401）に戻る。

【0065】

一方、ステップ 401 にてズームコントロールスイッチ 1 が操作されていない場合には、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 406）、プリセット動作が行われていない場合には、再びズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 401）に戻る。

【0066】

ステップ 406 にてプリセット動作が行われている場合には、A/D 変換回路

1 7 からズームレンズ光学系 9 の速度および方向を取得し（ステップ 4 0 7）、さらに A/D 変換回路 2 0 からズームレンズ光学系 9 の位置を取得する（ステップ 4 0 8）。

【 0 0 6 7 】

次に、ステップ 4 0 8 にて取得したズーム位置がこのレンズ装置における可動範囲端位置に達したか否かを判断し（ステップ 4 0 9）、ズーム位置が可動範囲端に達した場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 4 1 0）、プリセット動作表示器 2 1 をオフして（ステップ 4 1 1）、プリセット動作を終了する（ステップ 4 1 2）。

【 0 0 6 8 】

ステップ 4 0 9 にてズーム位置が可動範囲端に達していない場合には、プリセットモード切換えスイッチ 2 2 によりプリセットモードが選択されているか否かを判断する（ステップ 4 1 3）。

【 0 0 6 9 】

ここで、プリセットモードが選択されている場合には、ステップ 4 0 7 にて取得したズーム速度と、第 1 実施形態にて説明した図 2 に示すフローによって予めメモリ 6 a に記憶しておいたプリセット速度とが等しいか否か（例えば、ズーム速度がプリセット速度に対して所定の許容範囲内におさまっているか否か）を判断する（ステップ 4 1 4）。

【 0 0 7 0 】

ズーム速度とプリセット速度とが等しくない場合には、ズーム速度よりもプリセット速度の方が速いか否かを判断し（ステップ 4 1 5）、ズーム速度よりもプリセット速度の方が速い場合には、D/A 変換回路 1 0 への指令信号出力を増加させる（ステップ 4 1 7）。また、ズーム速度よりもプリセット速度の方が遅い場合には、D/A 変換回路 1 0 への指令信号出力を減少させる（ステップ 4 1 6）。

【 0 0 7 1 】

その後、ステップ 4 0 7 にて取得したズーム方向と、予め記憶しておいたプリセット方向とが等しいか否かを判断（ステップ 4 1 8）し、ズーム方向とプリセ

ット方向が等しくない場合には、現在のズーム方向とは反対方向にズームレンズ光学系 9 を駆動する（ステップ 4 1 9）。

【 0 0 7 2 】

なお、プリセットモードが選択されていない場合およびズーム速度がプリセット速度に等しい場合にはそのまま、ステップ 4 1 8 に進む。

【 0 0 7 3 】

上記の諸処理が終了した後、スピードプリセットズームスイッチ 7（図 6 および図 7 には、プリセットズームスイッチ 7 と記す）がオフからオンに変化したか否かを判断し（ステップ 4 2 0）、スピードプリセットズームスイッチ 7 がオフからオンに変化していない場合には、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 4 0 1）に戻る。

【 0 0 7 4 】

一方、スピードプリセットズームスイッチ 7 がオフからオンに変化している場合には、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 4 2 1）、プリセット動作が行われていない場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を B 側に切り換え（ステップ 4 2 5）、プリセット動作表示器 2 1 をオンする（ステップ 4 2 6）。そして、プリセットモード切換えスイッチ 2 2 によりプリセットモードが選択されているか否かを判断し（ステップ 4 2 7）、プリセットモードが選択されていない場合には、駆動可能な最高速でプリセット動作を開始（ステップ 4 2 8）、また、プリセットモードが選択されている場合には、プリセット速度でプリセット動作を開始する（ステップ 4 2 9）。

【 0 0 7 5 】

この後、ズームレンズ光学系 9 が可動範囲端に達すると（ステップ 4 0 9）、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 4 1 0）、プリセット動作表示器 2 1 をオフして（ステップ 4 1 1）、プリセット動作を終了する（ステップ 4 1 2）。

【 0 0 7 6 】

一方、ステップ 4 2 1 にてプリセット動作が行われている場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 4 2 2）、プリセット動作表示

器 2 1 をオフし（ステップ 4 2 3）、その後プリセット動作を終了（中止）する（ステップ 4 2 4）。

【 0 0 7 7 】

以上説明したように、本実施形態によれば、第 1 実施形態により得られる作用効果に加えて、プリセット動作をプリセット速度で行うかそのレンズ装置等が駆動可能な最高速で行うのかを撮影者が任意に選択できるので、テレビカメラやビデオカメラを用いての撮影の際の撮影手法の幅を更に広げることができ、より一層有意義なプリセット機能を実現することができる。

【 0 0 7 8 】

なお、上記第 1 および第 2 実施形態では、プリセット動作に用いるプリセット速度を、ズームレンズ光学系 9 の実駆動速度から得るようにした場合について説明したが、プリセット速度をズームコントロールスイッチ 1 の操作に比例した速度指令信号から得るようにしてもよい。

【 0 0 7 9 】

また、上記第 1 および第 2 実施形態では、ズームレンズ光学系 9 の駆動速度および駆動方向の検出を速度検出器 1 5 から出力される速度信号を用いて行う場合について説明したが、位置検出器から出力される位置信号を一定間隔で取得することによって駆動速度および駆動方向を検出してもよい。

【 0 0 8 0 】

（第 3 実施形態）

上述した第 1 実施形態では、「スピードプリセットズーム制御」、すなわちプリセット動作に用いるプリセット速度およびプリセット速度を、ズームレンズ光学系 9 の実駆動速度および実駆動方向から得るとともに、ズームレンズ光学系 9 の実駆動速度がプリセット速度に等しくなるようにズームレンズ光学系 9 の加減速制御を行う場合について説明したが、プリセット速度（指令）およびプリセット方向（指令）をそれぞれ、ズームコントロールスイッチ 1 の操作に比例した速度指令信号およびズームコントロールスイッチ 1 の操作方向に対応した指令信号から得るとともに上記のような加減速制御を行わないことにより、簡単な回路構成による簡易な制御を行うようにしてもよい。これにより、第 1 実施形態では必

要とされた速度検出器 1 5、速度信号演算回路 1 6 および A / D 変換回路 1 7 が不要となる。

【 0 0 8 1 】

図 9 には、本実施形態のレンズ装置の構成を示している。なお、本実施形態において、第 1 実施形態と共通する構成要素には第 1 実施形態と同符号を付す。

【 0 0 8 2 】

本実施形態では、第 1 実施形態の構成から、速度検出器 1 5、速度信号演算回路 1 6 および A / D 変換回路 1 7 を取り除いた構成を有する。

【 0 0 8 3 】

なお、スピードプリセットズームスイッチ 7 およびメモリスイッチ 8 は、ズームレンズ光学系 9 や不図示のフォーカスレンズ光学系を有するレンズ装置本体に一体的に設けてもよいし、レンズ装置本体にケーブル等を介して接続され、ズームコントロールスイッチ 1 に代わるサムリング等を備えるズームデマンド（外部コントロールユニット）に設けてもよい。

【 0 0 8 4 】

また、上記構成のうちズームレンズ光学系 9 を除く構成部分、すなわちズームコントロールスイッチ 1、CPU 6 等の各回路、モータ 1 4、位置検出器 1 8、スピードプリセットズームスイッチ 7 およびメモリスイッチ 8 は、ハンディタイプのレンズ装置本体に装着又は接続されて用いられるレンズ駆動ユニット（光学装置駆動ユニット）に設けてもよい。

【 0 0 8 5 】

このような構成のレンズ装置又はレンズ駆動ユニットにおいては、プリセット速度およびプリセット方向を記憶するために、ズームコントロールスイッチ 1 を予め操作する必要がある。ズームレンズ光学系 9 を予めモータ駆動する必要がある。この点については、第 1 実施形態と同様である。

【 0 0 8 6 】

なお、ズームコントロールスイッチ 1 からのズームレンズ光学系 9 の駆動制御方法は第 1 実施形態と同様である。

【 0 0 8 7 】

また、プリセット速度を記憶する際に必要なズームコントロールスイッチ 1 の操作量に比例して指令信号発生回路 2 から出力される速度指令信号の検出は、速度指令信号が、ズーム速度可変ボリューム 3、指令信号演算回路 4 および A/D 変換回路 5 を介して CPU 6 に入力されることにより可能である。なお、本実施形態では、速度指令信号に、ズームコントロールスイッチ 1 の操作方向に対応した方向指令信号が含まれている。また、同様に、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断も可能である。

【0088】

ここで、まず本実施形態におけるプリセット速度（およびプリセット方向）の記憶設定手順（CPU 6 の処理）について図 9 を用いて説明する。

【0089】

まず、初期設定としてメモリ 6 a 内に構成されたプリセット速度指令メモリ領域に、方向指令を含むプリセット速度指令として、テレ方向最高速などの所定のズーム駆動速度を記憶する（ステップ 501）。

【0090】

次に、A/D 変換回路 5 から速度指令信号を取得し（ステップ 502）、その後ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かを判断する（ステップ 503）。ズームコントロールスイッチ 1 が操作されていない場合には、再び A/D 変換回路 5 から速度指令信号を取得する（ステップ 502）。

【0091】

ズームコントロールスイッチ 1 が操作されていた場合には、メモリスイッチ 8 がオフからオンに状態が変化したか否かを判断し（ステップ 504）、メモリスイッチ 8 がオフからオンに状態が変化していない場合には、再びステップ 502 に戻る。

【0092】

メモリスイッチ 8 がオフからオンに状態が変化している場合には、ステップ 502 で取得した、方向指令を含む速度指令信号を新たなプリセット速度指令として、プリセット速度指令メモリ領域に記憶する（ステップ 505）。

【0093】

次に、本実施形態におけるプリセット動作について説明する。本実施形態のプリセット動作時のズームレンズ光学系 9 の制御も、CPU 6 から出力される指令信号が、D/A 変換回路 10、CPU 指令信号演算回路 11、指令信号切換えスイッチ 12 の B 側および電力増幅回路 13 を介してモータ 14 に入力され、ズームレンズ光学系 9 がプリセット速度指令に対応した速度および方向で駆動されることにより行われる。

【0094】

このプリセット動作時の CPU 6 の処理を図 10 および図 11 を用いて説明する。まず、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かを判断し（ステップ 601）、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されている場合は、ズームレンズ光学系 9 の制御をズームコントロールスイッチ 1 から行うために、指令信号切換えスイッチ 12 を A 側に切り換える（ステップ 602）。そして、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 603）、プリセット動作が行われていない場合には、再びズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 601）に戻る。

【0095】

一方、ステップ 603 にてプリセット動作が行われている場合には、プリセット動作表示器 21 をオフし（ステップ 604）、その後プリセット動作を終了（中止）する（ステップ 605）。そして、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 601）に戻る。

【0096】

ステップ 601 にてズームコントロールスイッチ 1 が操作されていない場合には、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 606）、プリセット動作が行われていない場合には、再びズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 601）に戻る。

【0097】

ステップ 606 にてプリセット動作が行われている場合には、A/D 変換回路 20 からズーム位置を取得する（ステップ 607）。

【0098】

次に、ステップ 6 0 7 にて取得したズーム位置がこのレンズ装置における可動範囲端位置に達したか否かを判断し（ステップ 6 0 8）、ズーム位置が可動範囲端に達した場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 6 0 9）、プリセット動作表示器 2 1 をオフして（ステップ 6 1 0）、プリセット動作を終了する（ステップ 6 1 1）。

【 0 0 9 9 】

ステップ 6 0 9 にてズーム位置が可動範囲端に達していない場合には、そのままステップ 6 1 2 に進む。

【 0 1 0 0 】

上記の諸処理が終了した後、スピードプリセットズームスイッチ 7 がオフからオンに変化したか否かを判断し（ステップ 6 1 2）、スピードプリセットズームスイッチ 7 がオフからオンに変化していない場合には、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されているか否かの判断（ステップ 6 0 1）に戻る。

【 0 1 0 1 】

スピードプリセットズームスイッチ 7 がオフからオンに変化している場合には、プリセット動作が行われているか否かを判断し（ステップ 6 1 3）、プリセット動作が行われていない場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を B 側に切り換え（ステップ 6 1 4）、プリセット動作表示器 2 1 をオンする（ステップ 6 1 5）。その後、図 9 に示したフローにより予め記憶設定しておいたプリセット速度指令を D/A 変換回路 1 0 に出力し、このプリセット速度指令に対応する速度および方向でプリセット動作を開始する（ステップ 6 1 6）。

【 0 1 0 2 】

この後、ズームレンズ光学系 9 が可動範囲端に達すると（ステップ 6 0 8）、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 6 0 9）、プリセット動作表示器 2 1 をオフして（ステップ 6 1 0）、プリセット動作を終了する（ステップ 6 1 1）。

【 0 1 0 3 】

ステップ 6 1 3 にてプリセット動作が行われている場合には、指令信号切換えスイッチ 1 2 を A 側に切り換え（ステップ 6 1 7）、プリセット動作表示器 2 1

をオフし（ステップ 6 1 8）、その後プリセット動作を終了（中止）する（ステップ 6 1 9）。

【 0 1 0 4 】

以上説明したように、本実施形態によれば、予め撮影者等がメモリスイッチ 8 の操作により任意に選択し、メモリ 6 a に記憶させておいた速度で、記憶させておいた方向にズームレンズ光学系 9 を駆動するプリセット動作を可能とすることにより、きわめて簡単な操作によってズームレンズ光学系 9 の一定速度駆動が可能となる。しかも、スピードプリセットズームスイッチ 7 をオンするだけで、ズームレンズ光学系 9 の同一速度での一定速度駆動を何度でも正確に再現することができる。

【 0 1 0 5 】

また、本実施形態によれば、プリセット動作を行う際にプリセット動作表示器 2 1 をオンするようにしているので、例えば低速でのプリセット動作が行われているときでも、撮影者にプリセット動作が行われているか否かを明確に認識させることができる。

【 0 1 0 6 】

なお、上記各実施形態では、プリセット速度およびプリセット方向の双方をズームレンズ光学系 9 の実駆動状態又はズームコントロールスイッチ 1 の操作に応じて発生する駆動指令から得るようにした場合について説明したが、プリセット速度およびプリセット方向のうちいずれか一方を実駆動状態から、他方を駆動指令から得るようにしてもよい。

【 0 1 0 7 】

また、上記各実施形態では、ズームコントロールスイッチ 1 が操作されていることを判別した上でプリセット速度を記憶する場合について説明したが、位置検出器から出力される位置信号の変化等を通じてズームレンズ光学系 9 が駆動されていることを判別した上でプリセット速度を記憶するようにしてもよい。

【 0 1 0 8 】

また、上記実施形態では、メモリスイッチ 8 が単体のスイッチから構成される場合について説明したが、誤操作防止等のために、2 つ等を 1 セットとしたメモ

リスイッチを設けて、両メモリスイッチが操作されたことに応じてプリセット情報の記憶を行わせるようにしてもよい。

【0109】

また、上記各実施形態では、ズームレンズ光学系に関するプリセット駆動制御を行う場合について説明したが、本発明は、ズームレンズ光学系以外の光学調節手段、例えばフォーカスレンズ光学系やアイリスに関するプリセット駆動制御を行う場合にも適用することができる。

【0110】

【発明の効果】

以上説明したように、本願第1の発明によれば、予め撮影者等が記憶指示操作手段の操作により任意に選択し、記憶させておいた速度で、記憶させておいた方向に駆動する速度・方向プリセット駆動制御を可能としているので、きわめて簡単な操作によって光学調節手段の一定速度駆動を行うことができる。しかも、同一速度での一定速度駆動を何度でも正確に再現することができる。

【0111】

また、速度・方向プリセット駆動制御が行われていることを視覚的に判断できる表示手段を設ければ、特に低速での光学調節手段の速度・方向プリセット駆動制御を行う場合に、撮影者に速度・方向プリセット駆動制御が行われているか否かを明確に認識させることができる。

【0112】

また、本願第2の発明によれば、上記第1の発明において、光学調節手段の駆動速度を、プリセット速度情報に対応する駆動速度とするか、駆動可能な最高駆動速度とするかを選択するために操作される速度選択操作手段を設け、この速度選択操作手段の操作により選択された駆動速度で光学調節手段を駆動するようにしているので、速度・方向プリセット駆動制御を用いた撮影手法の幅を広げることができ、より一層有意義なプリセット駆動制御機能を実現することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第 1 実施形態であるレンズ装置の構成図。

【図 2】

上記レンズ装置におけるスピードプリセットズーム制御に用いるプリセット速度およびプリセット方向の記憶設定フローチャート。

【図 3】

上記レンズ装置におけるスピードプリセットズーム制御の処理フローチャート。

【図 4】

上記レンズ装置におけるスピードプリセットズーム制御の処理フローチャート。

【図 5】

本発明の第 2 実施形態であるレンズ装置の構成図。

【図 6】

上記第 2 実施形態のレンズ装置におけるスピードプリセットズーム制御の処理フローチャート。

【図 7】

上記第 2 実施形態のレンズ装置におけるスピードプリセットズーム制御の処理フローチャート。

【図 8】

本発明の第 3 実施形態であるレンズ装置の構成図。

【図 9】

上記第 3 実施形態のレンズ装置におけるスピードプリセットズーム制御に用いるプリセット速度（方向）の記憶設定フローチャート。

【図 10】

上記第 3 実施形態のレンズ装置におけるスピードプリセットズーム制御の処理フローチャート。

【図 11】

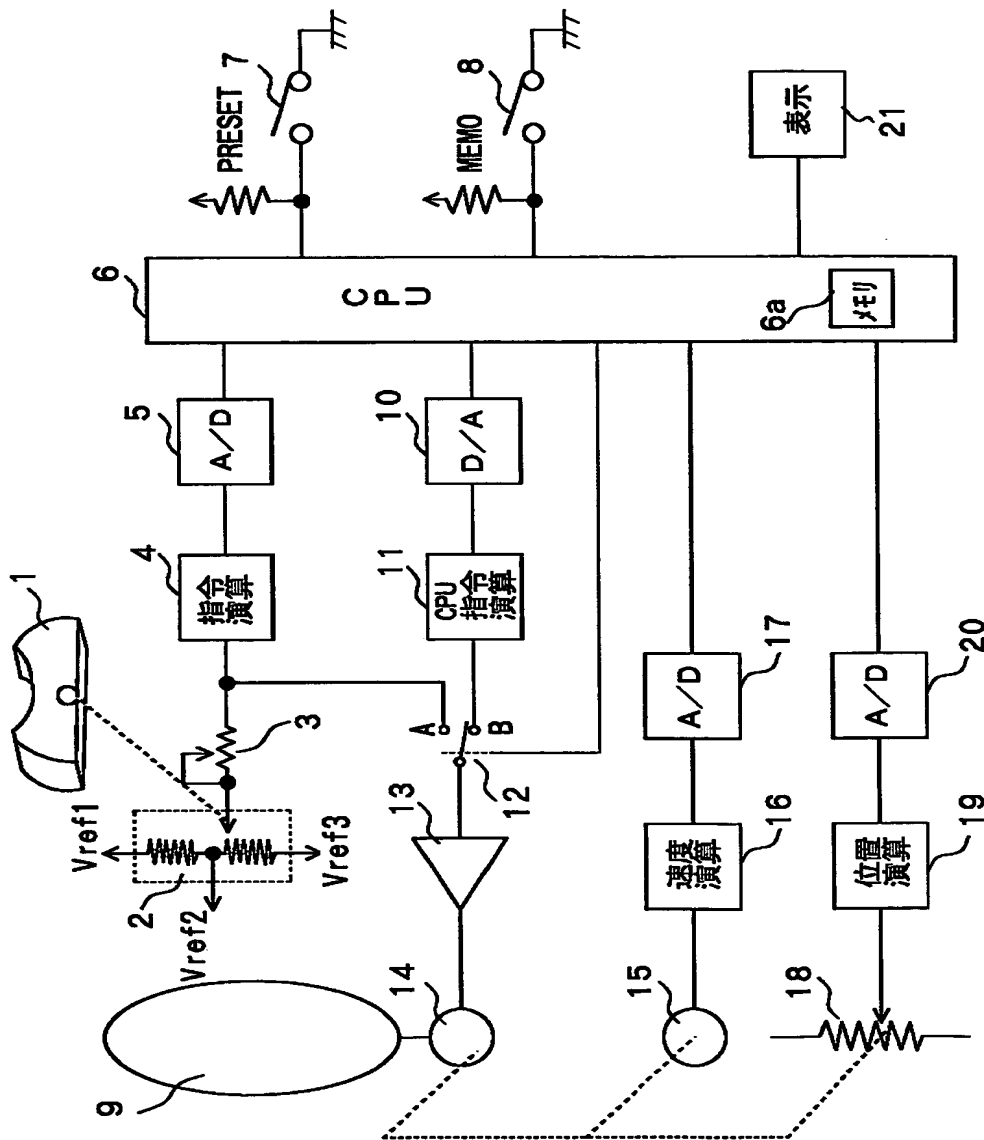
上記第 3 実施形態のレンズ装置におけるスピードプリセットズーム制御の処理フローチャート。

【符号の説明】

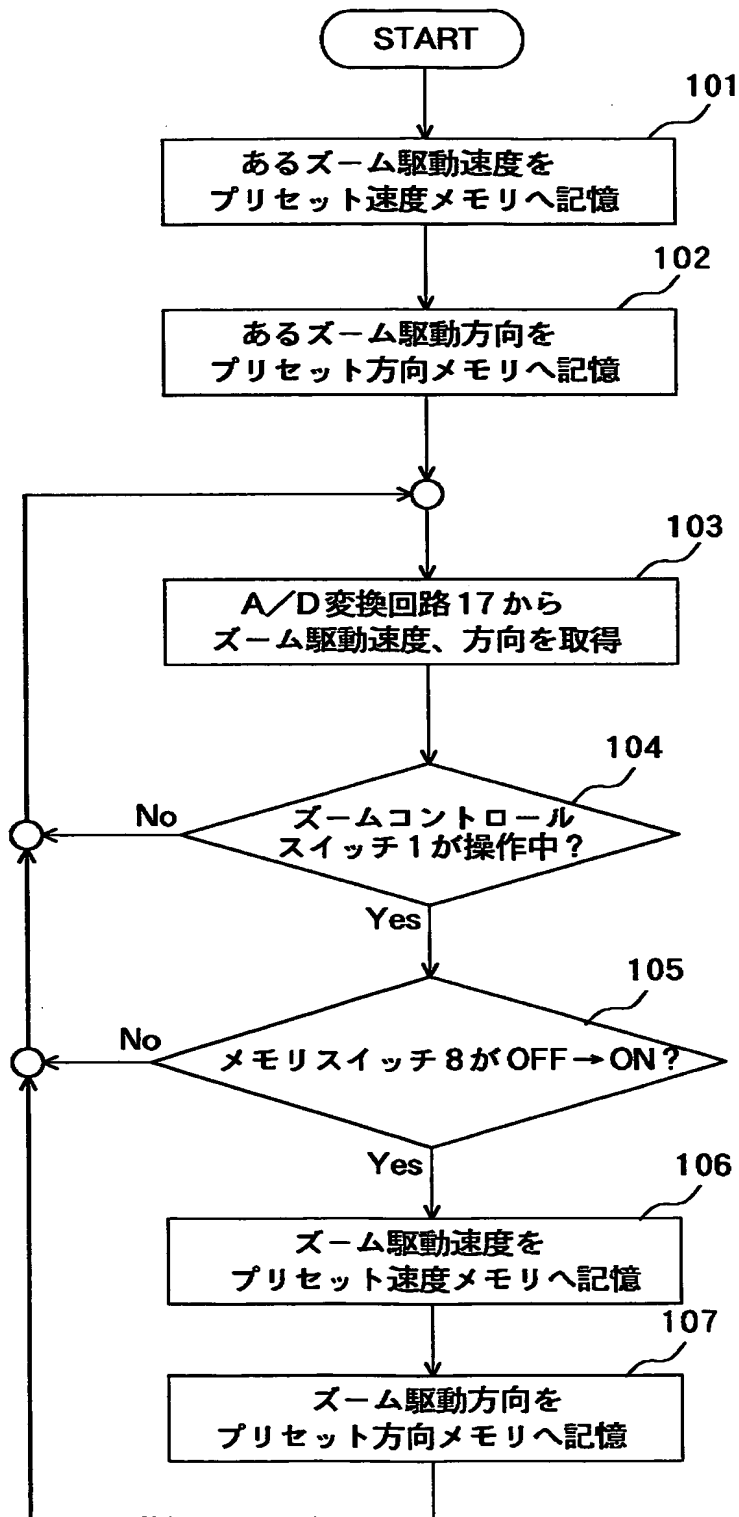
- 1 …ズームコントロールスイッチ
- 2 …指令信号発生回路
- 3 …ズーム速度可変ボリューム
- 4 …指令信号演算回路
- 5, 1 7, 2 0 …A/D変換回路
- 6 …CPU
- 6 a …メモリ
- 7 …スピードプリセットズームスイッチ
- 8 …メモリスイッチ
- 9 …ズームレンズ光学系
- 1 0 …D/A変換回路
- 1 1 …CPU指令信号演算回路
- 1 2 …指令信号切換えスイッチ
- 1 3 …電力増幅回路
- 1 4 …モータ
- 1 5 …速度検出器
- 1 6 …速度信号演算回路
- 1 8 …位置検出器
- 1 9 …位置信号演算回路
- 2 1 …プリセット動作表示器
- 2 2 …プリセットモード切換えスイッチ

【書類名】 図面

【図 1】

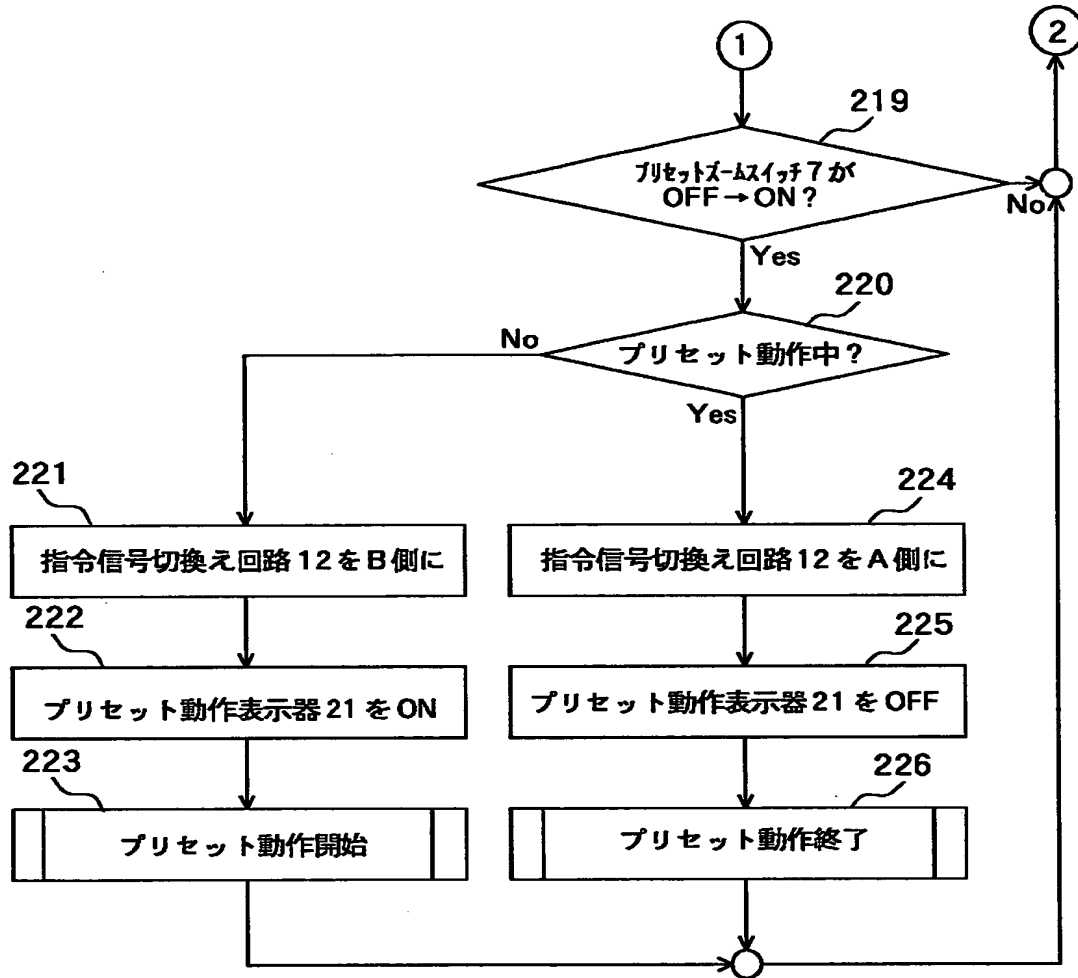


【図 2】

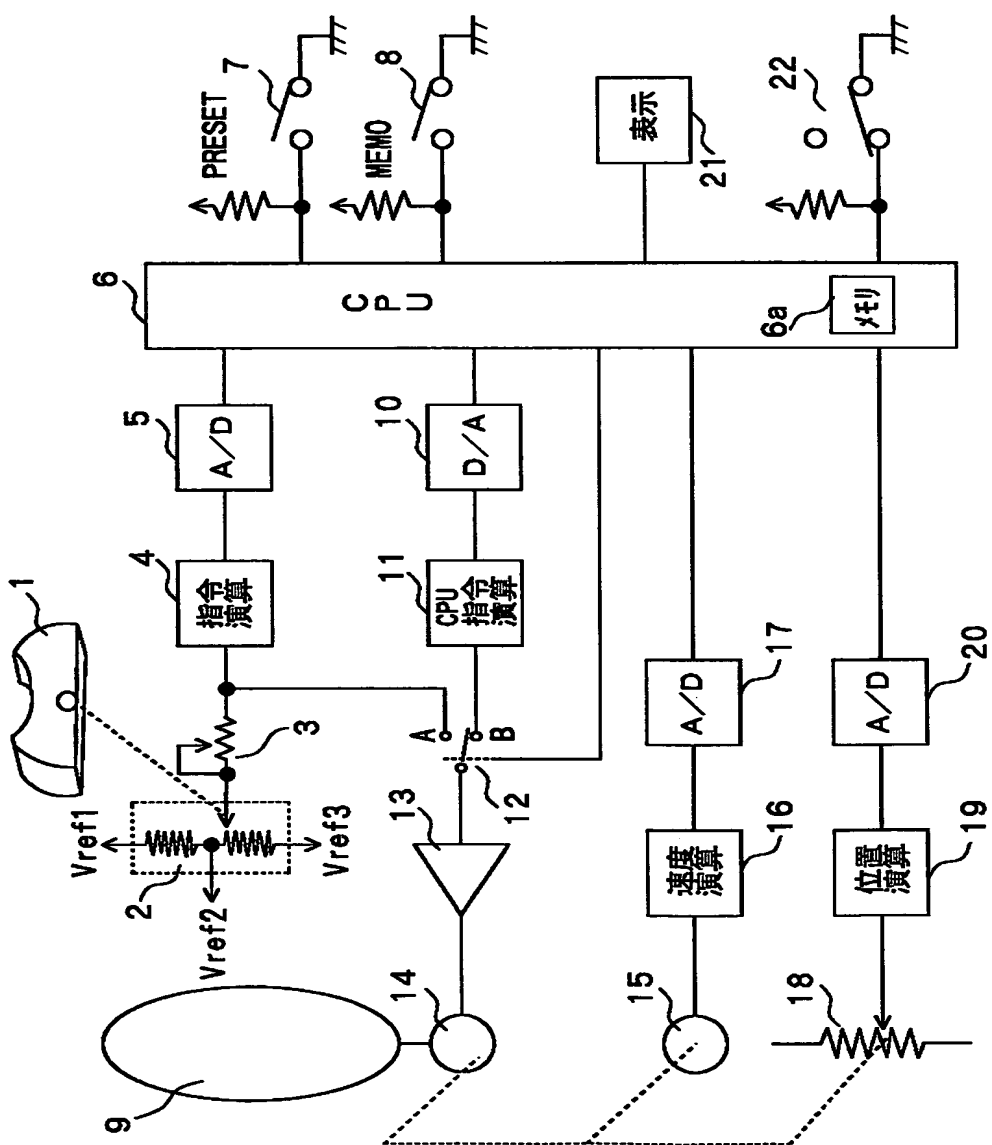




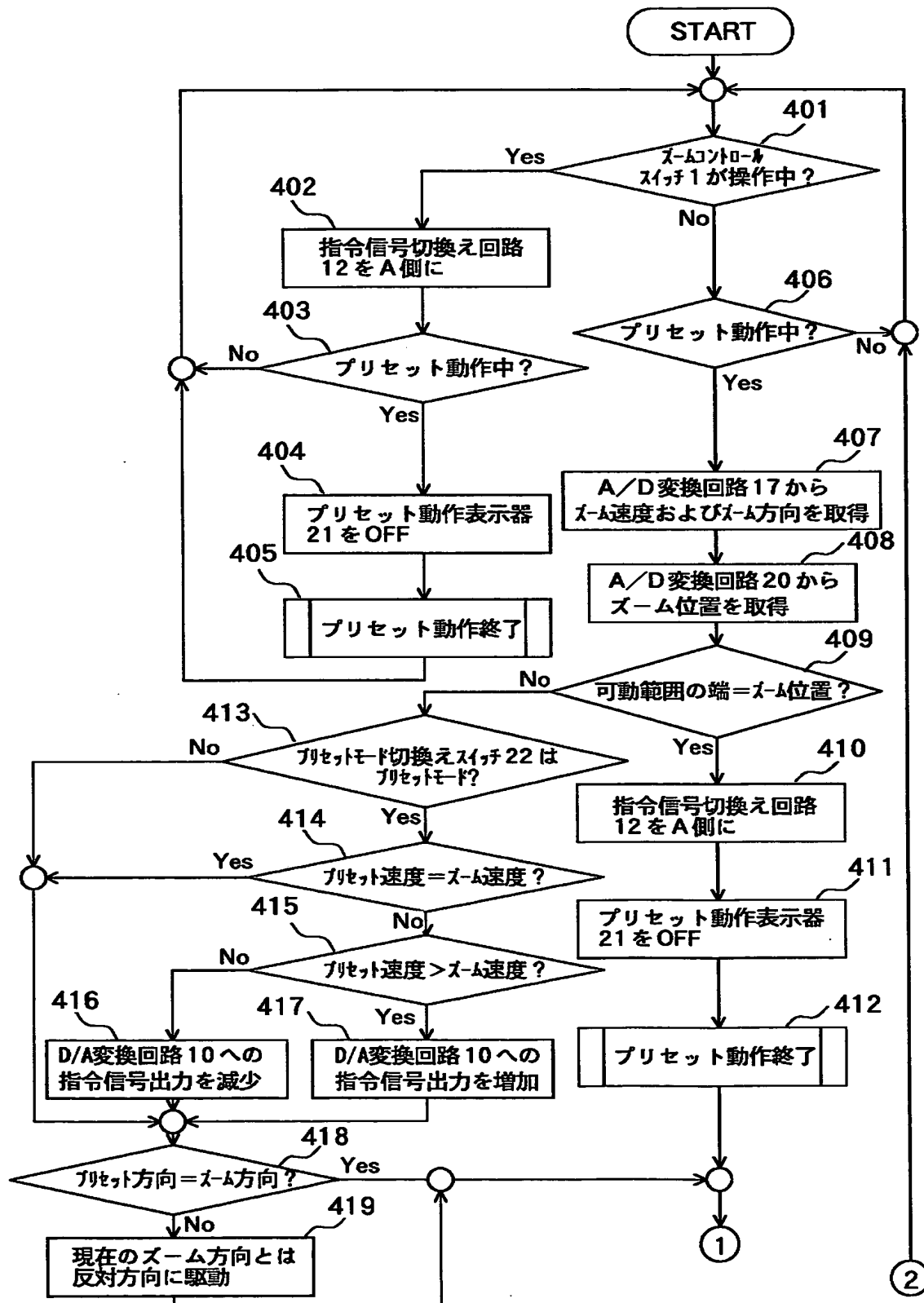
【図 4】



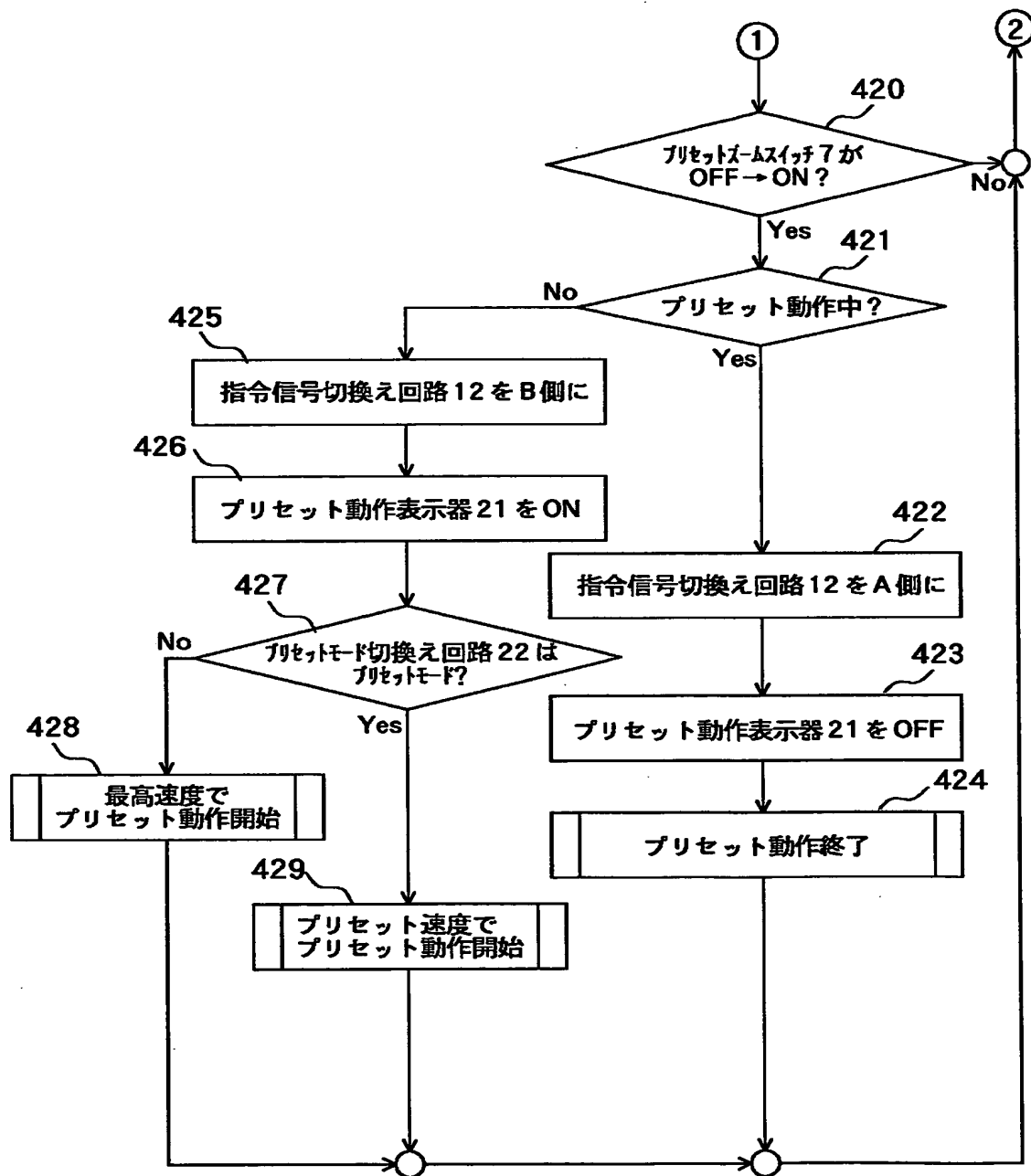
【図 5】



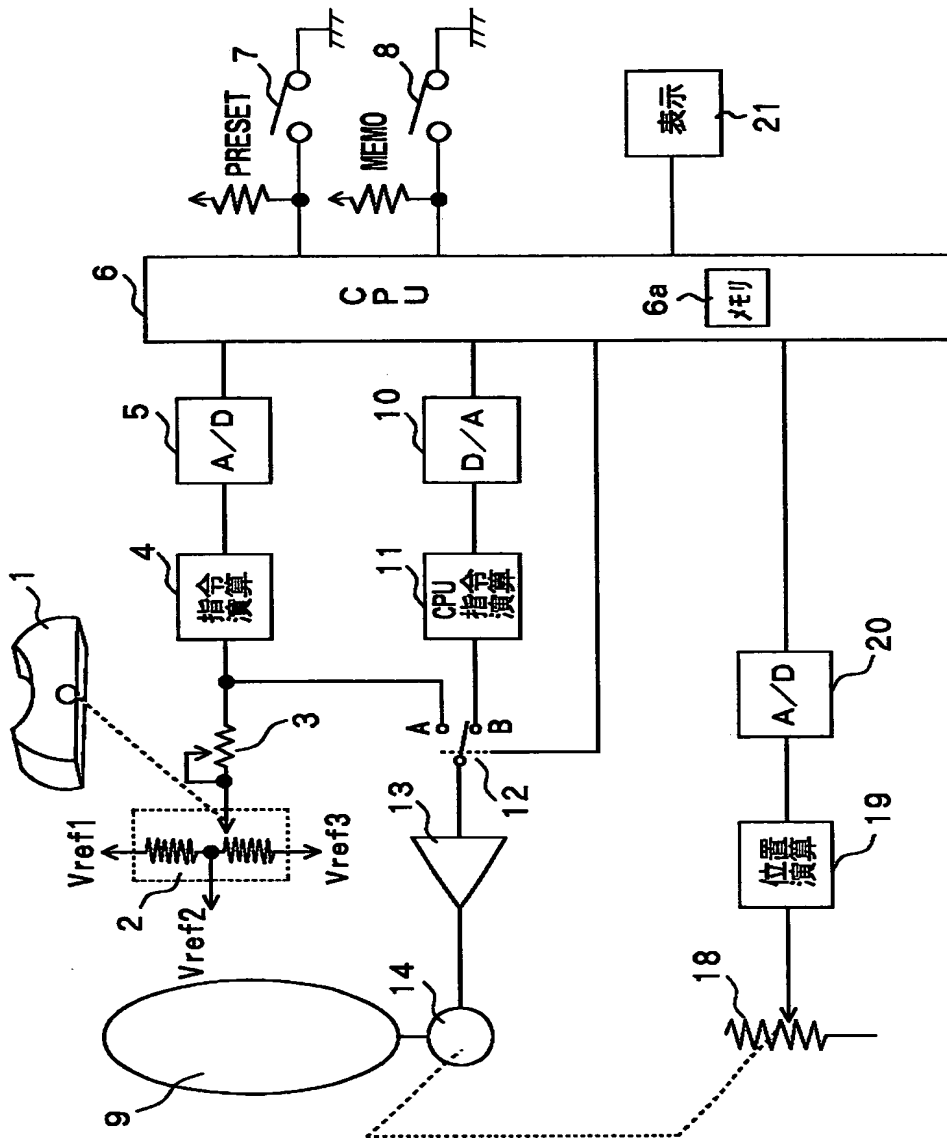
【図 6】



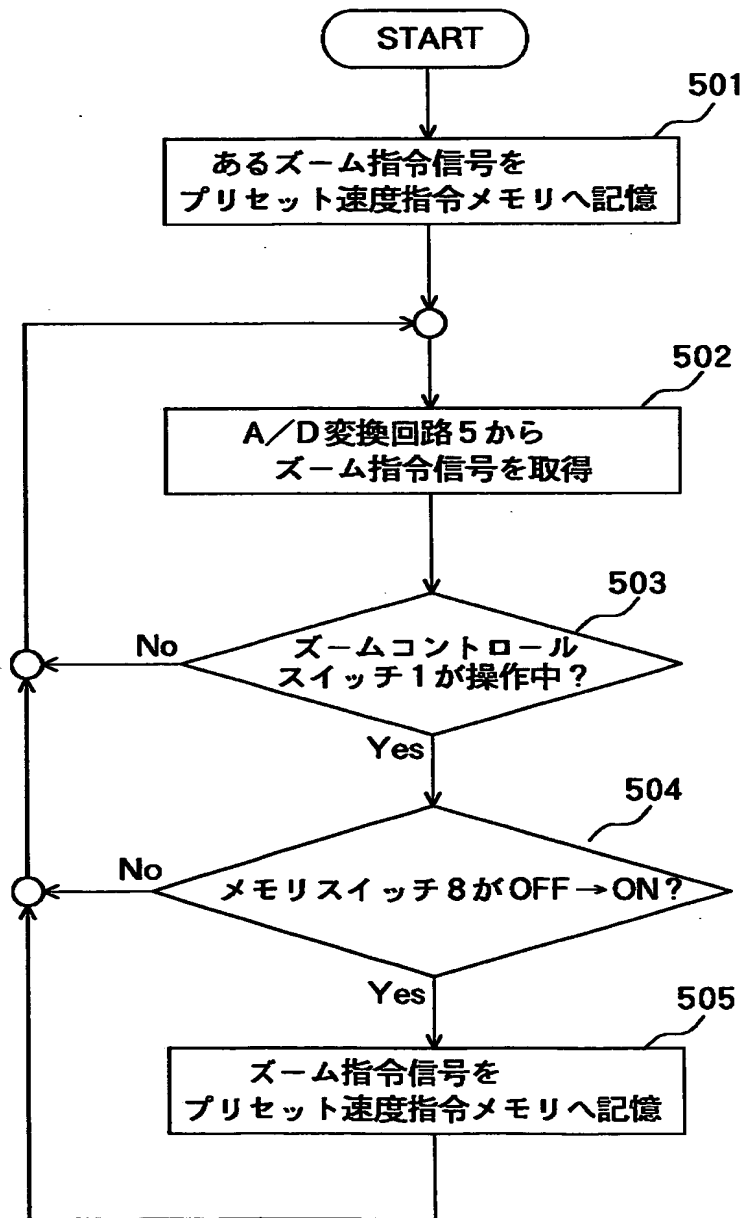
【図 7】



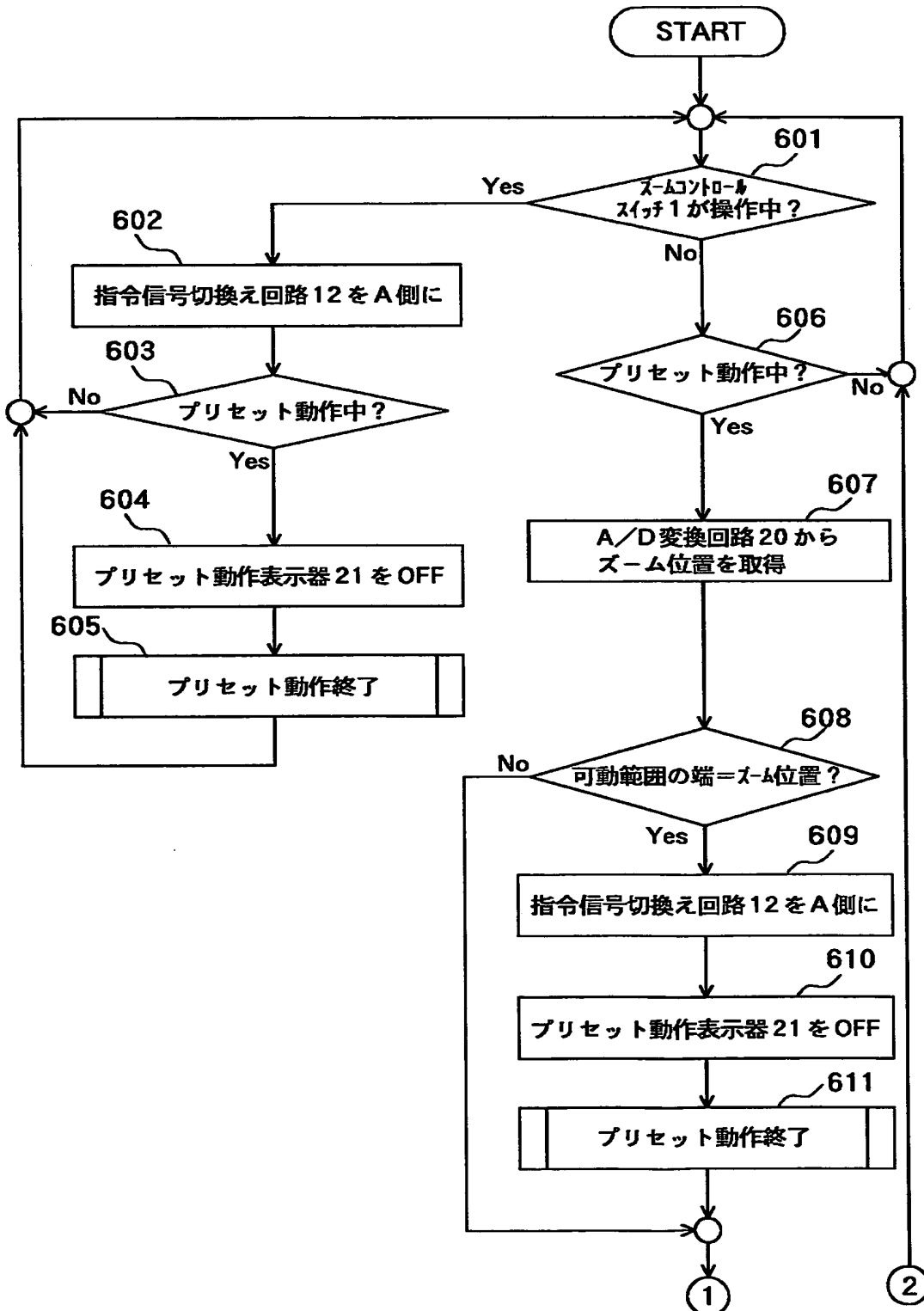
【図 8】



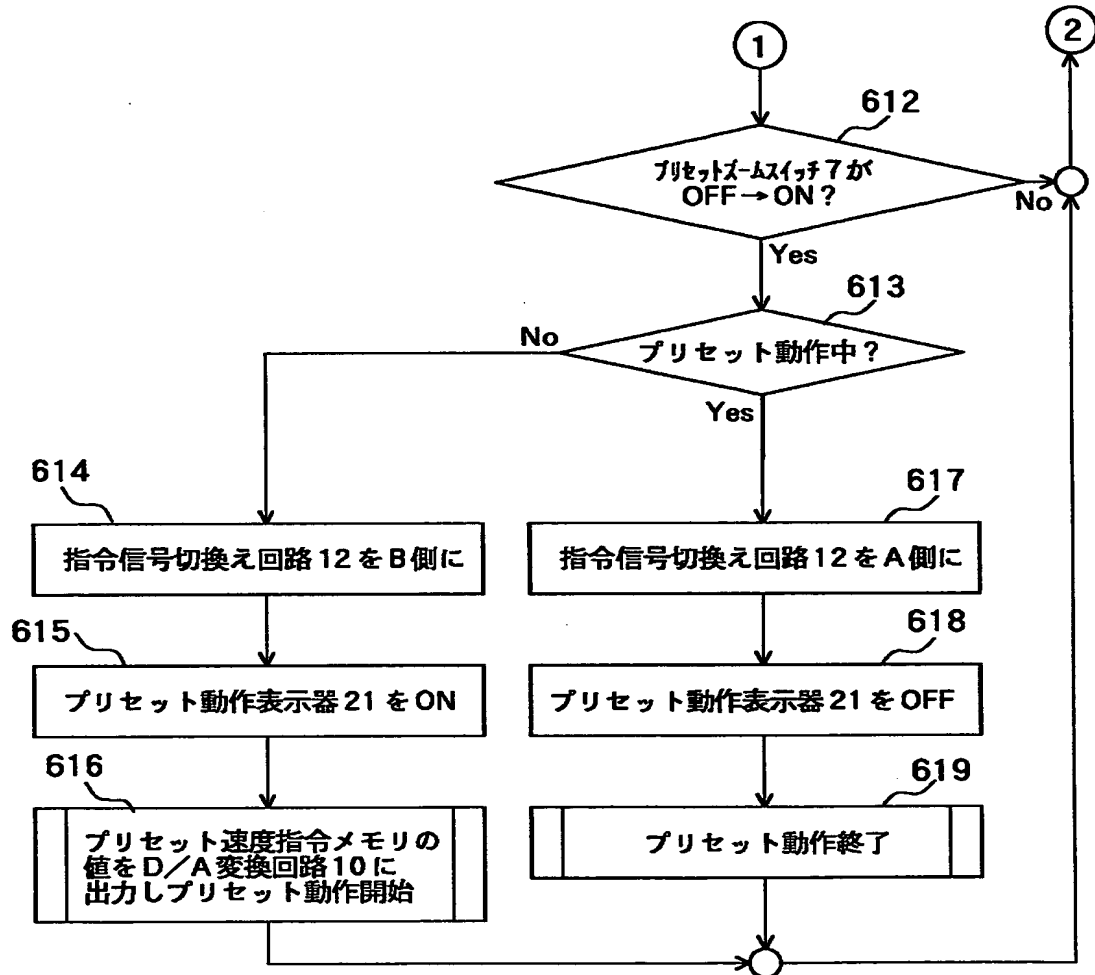
【図 9】



【図 1 0】



【図 1 1】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 撮影者にとって、ズーム駆動を行っている間、ズームコントロールスイッチ等の操作量を一定に保ってズーム速度を一定に維持することは容易ではない。

【解決手段】 レンズその他の光学調節手段 9 に対し、記憶手段 6 a に記憶されたプリセット情報を用いるプリセット駆動制御を行う光学装置又は光学装置駆動ユニットにおいて、記憶指示操作手段 8 が操作されることに応じて、任意のプリセット速度情報および任意のプリセット方向情報を記憶手段に記憶可能とし、光学調節手段を、記憶されたプリセット速度情報に対応する速度で、記憶されたプリセット方向情報に対応する方向に駆動する速度・方向プリセット駆動制御を行えるようにする。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名	キャノン株式会社